

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 辺野古護岸 軟弱地盤で崩壊恐れ —地質学者らの独自の検証結果で—

「護岸崩壊の恐れ」と報じた各沖縄地元新聞。円内は立石雅昭名誉教授



琉球新報と沖縄タイムスは17日付け1面トップで「辺野古護岸 崩壊恐れ」と報じました。辺野古新基地建設で水面下70mより深い地盤が「軟弱」であることを示すデータが存在していた問題で立石雅昭新潟大名誉教授（地質学）ら調査団がこのデータを基に護岸の安定性を独自に検証したところ、最悪の場合「崩壊する可能性がある」との結論が出たことが分かったというものです。立石氏は「再調査し、データを公表すべき」と指摘しています。

**国交省の港湾基準満たさず**

同データは「B27」地点の強度を防衛省の委託業者が調査していたものです。立石氏によるとこのデータで地盤の安定性を分析したところ国土交通省の定める港湾施設の基準を満たさない上に、設置予定の大型護岸が崩壊する恐れがあるとの結論がえられたといっています。立石氏ら調査団は地質や地盤などの専門家10数人で構成。これまでも活断層の可能性が高いことなど指摘しています。

「再調査し、データを公表すべきだ」

### 「港湾法で港の軍事利用を拒否できる」 名護市で新倉氏講師に学習会

ヘリ基地反対協と本部町島ぐるみ会議などが共催し15日、名護市内で「県の港を軍事利用させないために」と題して学習会を開催、約120人が参加しました。講師の非核市民宣言運動・ヨコスカの新倉裕史氏は、横須賀や全国自治体での米軍艦の入港に関わるたたかひの成果や到達点を紹介し、憲法前文や9条だけではなく、戦後の港湾法にも平和主義が埋め込まれた、と「港の軍事利用を拒むことは自治体や住民の歴史的使命だ」と強調しました。

#### 市民が大勢集まれば軍事利用阻止できる

本部町の仲宗根須磨子町議は「港湾法で自治体の権限がいかに大きいかわかり、すっきりした」と感想を述べ、昨年9月に海兵隊が伊江島へ船舶輸送のために本部港を利用しようとした際、全港湾労組と協力して阻止した経験を報告、「市民が現場に多く集まれば港の軍事利用は阻止できることを確信した」と話しました。



学習会の全景↑  
と講師の新倉氏→



## 3月4日はさんしん(三線)の日。ゲート前で平和を奏でよう！



写真は昨年「さんしんの日」の様子

※駐車場は、辺野古集落は迷惑になりますので、久志のヘリ基地反対協の専用駐車場をご利用ください。

午前中に開会あいさつやギター演奏（海勢頭豊）などあり、12時にいっせいに三線斉唱（かぎやでい風節、御縁節、辺野喜節）、琉舞・かぎやでい風節、このあと琉舞、下駄踊りなどあり最後は、全員でカチャーシーと大合唱でフィナーレとなります。

#### 主なプログラム

実行委員会は三線演奏者を募集しています。午前11時までにゲート前に集まってください ● 服装は普段着でも結構 ● 調弦の高さはC(4) ● かぎやでい風の踊りに出演する方は扇子のご持参を、と呼びかけています。

#### 三線演奏者を募集

3月4日(水) 11時~13時  
キャンプ・シュワブゲート前で  
毎年3月4日は、全国一斉に三線が響き渡ります。キャンプ・シュワブゲート前でも6回目の「三線の日」が実行委員会主催で行われます。